

宮古島におけるさとうきび の現状と対策

- 株出面積の増加による対策
- 手刈収穫からハーベスタ収穫への対策
- 生産者の高齢化と担い手育成の課題と対策

宮古製糖(株) 城辺工場
農務部

1

宮古島の概況

宮古島は沖縄本島からおよそ290km、石垣島からおよそ133kmの距離にあります。

地層はほとんど隆起サンゴ礁を母岩とする琉球石灰岩で、土壌は島尻マーヅのほか、一部にジャーガルがみられます。

宮古群島は大小八つの島からなり、うち最も大きな島が宮古本島になります。行政区は宮古島市、多良間村の1市1村からなります。

人口約56,000人弱の島でさとうきび生産農家約6,100人余で栽培されているさとうきびの島です。

(宮古島市、多良間村)

年間平均気温23.3度 平均湿度79% 年間降水量は2,019mm。

2

宮古島の前期の製糖実績

宮古島管内では2社4工場(分蜜糖工場3社、含蜜糖工場1社)があります。

宮古本島に

宮古製糖(株)城辺工場(分蜜糖)

沖縄製糖(株)宮古工場(分蜜糖)

伊良部島に

宮古製糖(株)伊良部工場(分蜜糖)

多良間島に

宮古製糖(株)多良間工場(含蜜糖)

25/26年期実績では

宮古製糖城辺工場 108,728,665kg

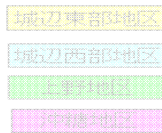
沖縄製糖宮古工場 135,822,133kg

宮古製糖伊良部工場 60,648,004kg

宮古製糖多良間工場 21,221,463kg

合計326,420,238kgの生産実績となりました。沖縄県全体(25/26年期)の682,000t余に対して約47%余を占めています。

現在、宮古地区全体で38万トンを目指し関係機関で取り組んでいるところです。



3
宮古製糖株式会社

宮古製糖城辺工場 過去5年間の生産量

- ◆21/22年期 114,697,678kg
- ◆22/23年期 110,556,635kg
- ◆23/24年期 67,478,888kg
- ◆24/25年期 117,275,782kg
- ◆25/26年期 108,728,665kg

過去5年間、23/24年期の5月に台風被害のあった年を除いて生産予想よりも増産傾向でした。

4

ベイト剤の普及と効果

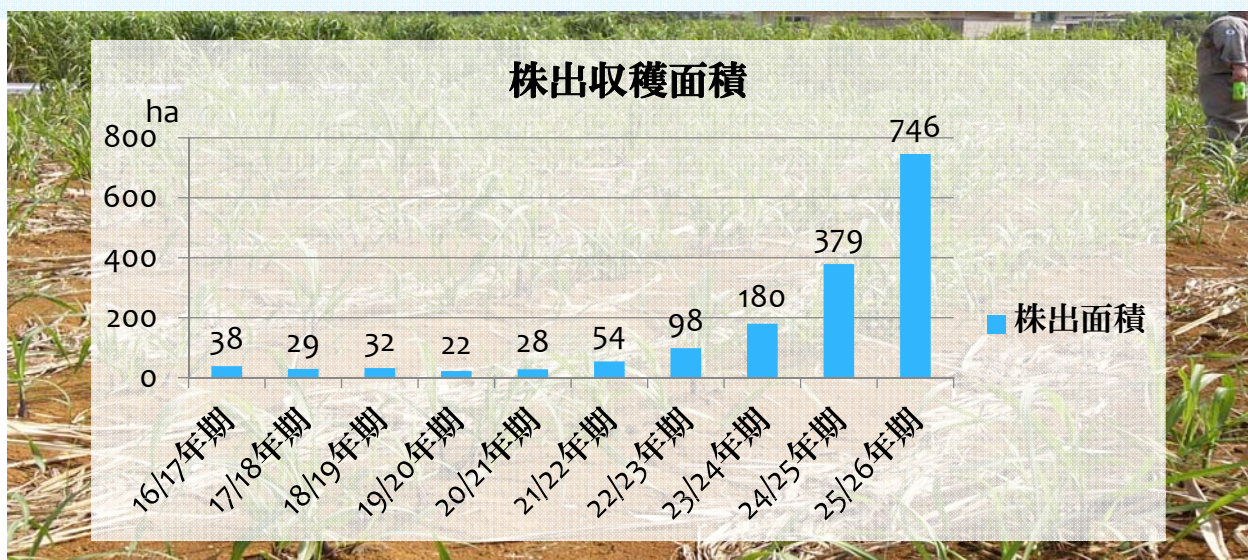
ここ数年の生産量が予想値を上回った一因にはベイト剤の普及も考えられます。

現在ほとんどの農家がベイト剤を使って植え付けをします。またベイト剤は別の変化ももたらしました。

城辺工場管内では昭和44年の1,351haをピークに株出面積は減少し宮古島では株出栽培はほとんどみられなくなりました。しかし行政等の補助事業でベイト剤が普及し、収穫後の萌芽がよくなり、ここ5~6年で株出面積が増加しました。

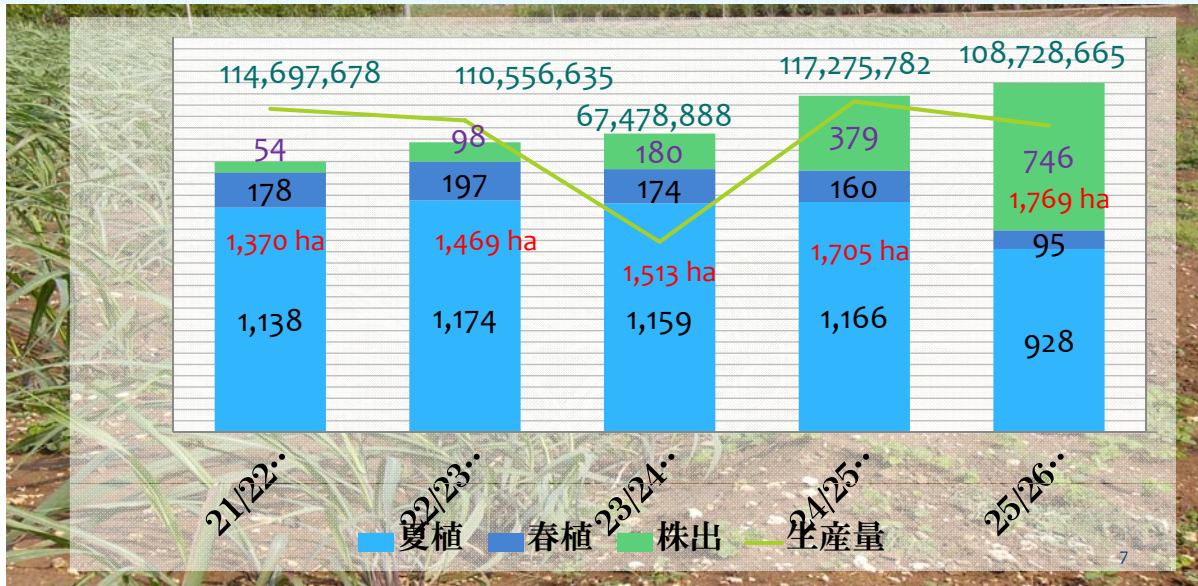
5

城辺工場 過去10年間の株出面積の推移

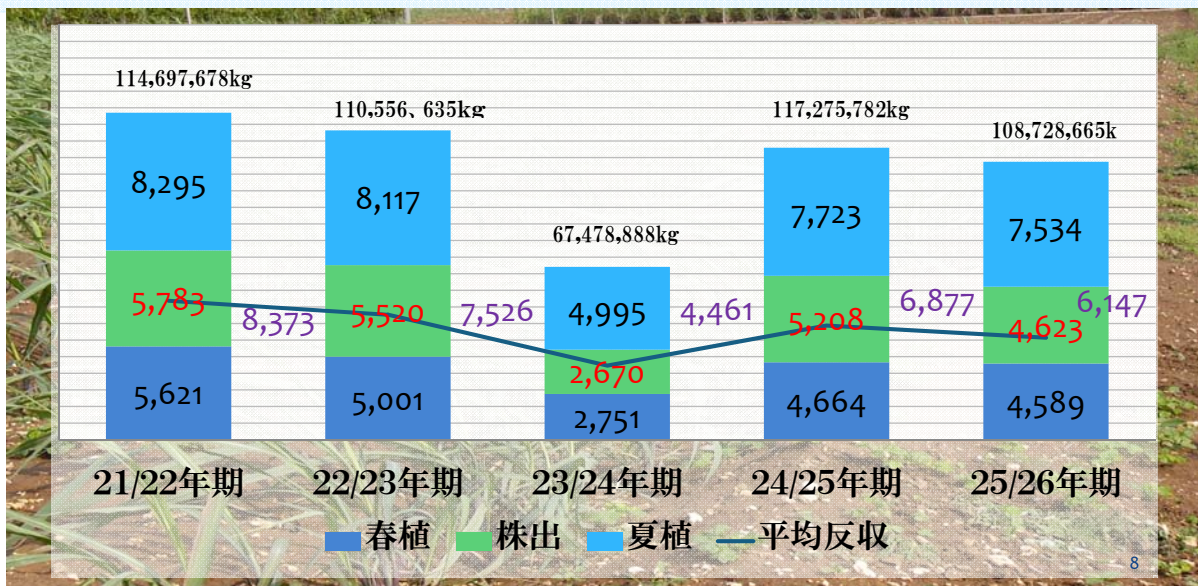


6

城辺工場 過去5年の収穫面積の推移



城辺工場 過去5年 期別反収の推移



株出栽培反収増への課題

課題

- 株出栽培が出来るようになり、収穫面積が増えたが生産量を増やすために株出の反収をどう上げるか。
- 収穫後放置圃場でも、萌芽がみられるようになり、最終的に収穫するような反収の低い圃場もみられる。特にそのような圃場では、肥培管理、中耕培土、雑草対策等の処理が行き届いていないため、結果的に反収減になっている。

9

株出栽培反収増への解決策

解決策

収穫後早めの株出管理を行う事で、その後の栽培への意識を持たせる必要がある。

宮古地区には株出複合管理機が50台余りあり、ハーベスタオペレーターと連携し収穫後すぐ株出管理作業ができる体制を構築している。その体制を維持し、農家へ利用を促す。

株出複合管理機を使用後、中耕培土をしやすくする為、ハーフソイラーの導入や中耕ローター(カセットロータリー)の導入を関係機関と進め、利用を推進する。

除草剤や病害虫防除剤の適期使用法や、欠株の補植等を農家へ周知徹底させる。

10

ハーベスタ収穫増への課題

城辺工場管内ではハーベスタ収穫の割合が急激に増加している。申し込みが増えた為、現在のハーベスタの台数では対応しきれっていない現状がある。

背景

生産農家の高齢化。

専業農家の減少。

圃場整備が進み機械収穫が容易になった。

ハーベスタの性能が向上している。

11

城辺工場 過去5年間のハーベスタ使用率の推移

年 期	ハーベスタ使用率	ハーベスタ利用増加
21/22年期	23.54%	2.01%
22/23年期	28.84%	5.30%
23/24年期	39.72%	10.88%
24/25年期	46.41%	6.69%
25/26年期	59.31%	12.90%

今期のハーベスタ申し込みも増える傾向にあり絶対的な台数不足になる見込み。

12

城辺工場 過去5年間のハーベスタ台数の推移

年 期	大型ハーベスタ	中型ハーベスタ	小型ハーベスタ	合計台数
21/22年期	1	7	8	16
22/23年期	1	7	8	16
23/24年期	1	8	12	21
24/25年期	1	8	16	25
25/26年期	1	8	22	31

ここ2～3年は宮古島市に配慮してもらい弊社管内に多めに導入してもらっている。 ¹³

ハーベスタ導入への取り組み



- ハーベスタ導入の受け皿となるような農家の選定と指導。
- 行政との導入地区の選定。
- ハーベスタ収穫に適した栽培方法の農家への指導。
- 手刈収穫とハーベスタ収穫のバランスの見直し。
- ハーベスタ運営協議会との連携。

ハーベスタ使用農家への指導

ハーベスタ収穫をお考えの皆様！
 ～ルールを守って収入アップ～
 ハーベスタ収穫は、とても繊細な作業なので、下記のポイントを守って少しでも多く収穫できるようにしましょう！

<p>ポイント① 畦幅は、140cm以上 畦幅が小さいと、ハーベスタにさとうきびが押しつぶされてしまう可能性があります（ブルトラが入る畦幅が目安です）</p>	<p>ポイント② 収穫する畑は、30アール以上 面積の小さい畑は、ハーベスタがうまく動けないため、収穫に無駄が出てしまいます</p>
<p>ポイント③ 畦は、出来るだけ長く 枕刈りはしっかりと ハーベスタが、稼働しやすいように、 1. 出来るだけ、畦を長く取る 2. 可能な限り道路と直角に畦を立てる 3. 枕地は5m以上確保</p>	<p>ポイント④ 基本の管理はしっかりと ・高培土はしっかりと ・雑草防除はしっかりと ・ほ場のゴミはしっかりと処分 ・植え付け本数を増やしましょう （肥料袋25～30袋/10a） ※1袋＝2節苗で約100本</p>

宮古農林水産振興センター 農業改良普及課

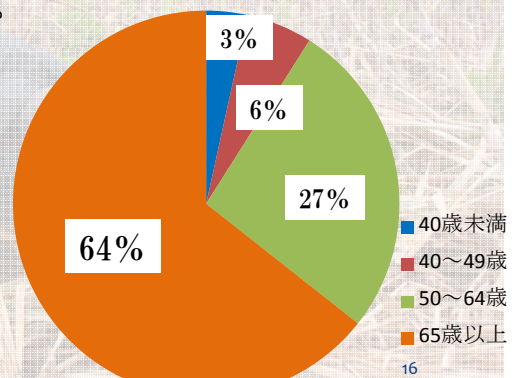
沖縄県宮古事務所農業改良普及課に作成してもらったパンフレット使い懇談会、OCR調査、申し込み等で農家に説明している。

生産者の高齢化と担い手育成の課題と対策

高齢化問題は宮古島でも進んでおり、地域に配置している原料員から農家の生産状況、世帯現況等、情報収集に努めております。

個々の農家単位での農業経営は厳しくなりつつある中で、農作業の機械化、受委託組織の育成等、集落単位での役割分担を明確にする。こういった取組を農家、行政、農協、原料員、製糖工場等地域ぐるみで進めて行く必要がある。

宮古島の農業就業人数5,984人に対して65才以上が3,852人と約64%を占めている。



資料：宮古の農林水産業平成26年2月版

増産に向けた連携体制①

宮古地区には宮古地区農業振興会があり、宮古島市長を中心に関係各団体のトップをメンバーに農業に関する振興を行っている。

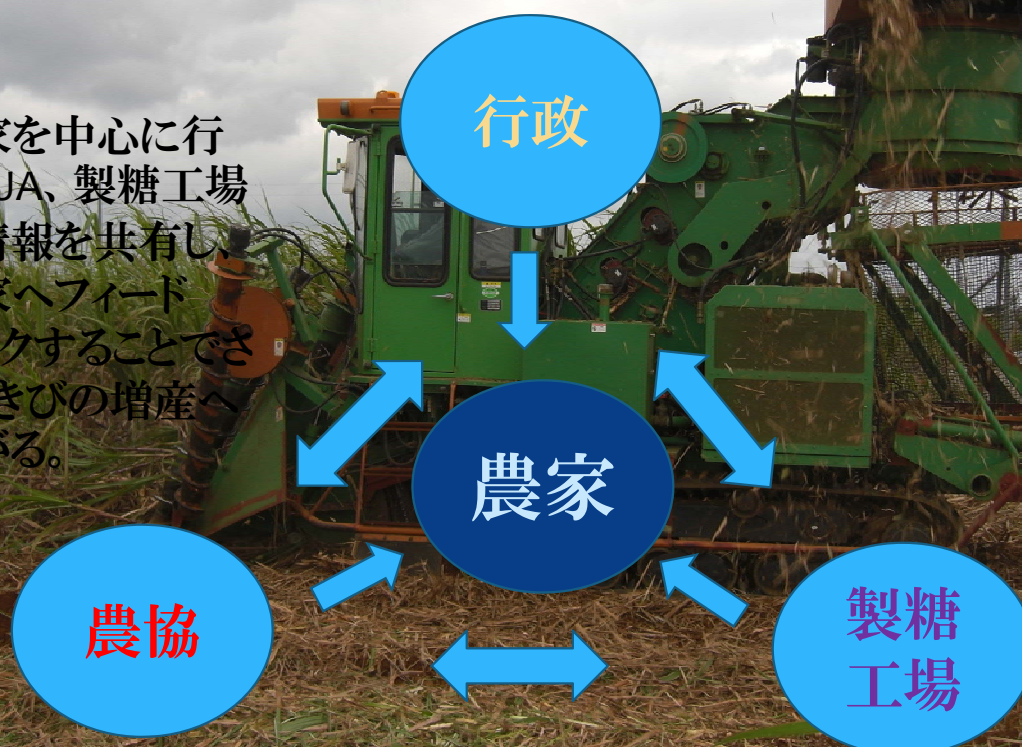
その中に宮古地区さとうきび糖業振興会が組織され、さとうきびの補助事業の窓口等になり、さとうきびの増産に関する活動を行っている。

また宮古地区さとうきび糖業振興会の中に、宮古地区さとうきび技術委員会、病虫害対策協議会があり、定期的に会議を行い増産に向けた活動を行っている。

17

増産に向けた連携体制②

農家を中心に行政、JA、製糖工場が情報を共有し、農家へフィードバックすることでさとうきびの増産へ繋がる。



18

その他、宮古地区での取り組み

アオドウガネ可動式
誘殺灯



干ばつ時の10tトラックに
よる灌水作業



ヘリによるヤソ防除



19

農家への取り組み

農薬紹介

検出するなら、コレ!!

オンコロOK粒剤

農協の資材店で

1,188円/1袋 (平成25年12月現在)



株元にまいて
使用して下さい

1反に3袋程度が
目安です。

宮古製糖株式会社

このようなチラシを作り、
懇談会等で、原料員や農
家へ説明をし、病害虫防
除を呼びかけています。

農薬紹介

イネヨトウを退治ひょうら
サムコロ[®]フロアブル10



イネヨトウ防除用の新農薬です。

500Lのタンクに100ml 混ぜればOK!

動噴で葉鞘内に染込むように散布してください。

収穫30日前まで散布可能

使用回数は3回以内です。

各JA資材店にて、1本 3,369円で販売中!
(平成24年7月現在)

20

宮古製糖株式会社

ご静聴ありがとうございました



宮古製糖(株) 城辺工場
農務部